

「りんご」でつながる自治体交流 ～青森県弘前市とブーヴロン・アン・ノージュ村（フランス）が 技術協定を締結しました～

パリ事務所

青森県弘前市は、「お城とさくらとりんごの街」といわれ、特に特産品であるりんごの生産量は日本一。そのおいしさの理由は、弘前市のメリハリのある四季にあると言われています。りんごはとてもデリケートな果物であり、四季の持つ微妙な温度の変化に敏感で、一年をかけて何度も手を入れ大切に生産されています。特に、弘前市の気温が急激に下がる夏から秋にかけての温度変化は、りんごにきれいな着色を加えるための重要な要素と言えます。弘前市では「りんごの街」として、弘前産のりんごのおいしさを、国内だけでなく国外にも積極的に情報発信しています。



弘前市のりんごの街並みと岩木山

また、近年では、その特産品のりんごを使った付加価値の高い加工品として、とりわけシードルに注目。現在市内にはシードルの醸造元は一カ所あるものの、将来的に農家が自分で生産したりんごを原料に「地シードル」をつくることを目指し、シードルの本場フランスからその製造技術を学ぼうと、この度、「シードル祭」で有名なシードルの産地、カルヴァドス県ブーヴロン・アン・ノージュ村と技術協定を締結しました。

1. ブーヴロン・アン・ノージュ村とりんごのお酒「シードル」



ブーヴロン村の街並み

ブーヴロン・アン・ノージュ（以下、「ブーヴロン村」という。）は、パリの北西約 180 kmに位置するバス・ノルマンディー州カルヴァドス県にある人口約 230 名ほどの小さな村です。県名となっているカルヴァドスはりんごから作る蒸留酒の名前でもあります。このことから分かりますとおり、ブーヴロン村の

あるペイ・ドージュ (Pays d'Auge) と呼ばれる地域はりんごの栽培が盛んで、地域内のりんご農園をめぐる約 40 kmの道は「シードル街道 (Route de Cidre)」と名付けられる人気の観光ルートとなっています。

その沿道にあるブーヴロン村は、目抜き通りに木組みの家々が立ち並び「フランスの最も美しい村」¹に認定され、仏国内外を問わず多くの観光客が訪れます。村内にはりんご農場が多く見られ、りんご農園は地元の風景の一部を成しています。

シードルはりんごの果汁を発酵させて作ったアルコール飲料で、フランス国内では、気候的にりんごの栽培に適したノルマンディー地方とブルターニュ地方で生産されています。アルコール度数は約 3%と低く、日常的に飲むお酒として親しまれるとともに、フランスでは原産地呼称制度 (AOC)²の対象となっています。

ブーヴロン村の地域では、このシードルに加え、蒸留酒のカルヴァドス、カルヴァドスにりんごの果汁を混ぜてつくるポモーという、りんごを原料とする 3種類のアルコールを生産しています。

2. 弘前市とブーヴロン村の技術協定について



協定書署名後に握手する
カファール村長と葛西市長

弘前市はシードル生産の先進地であるブーヴロン村で、シードルの製造業者やシードルを用いた食文化について視察・調査を実施するとともに、シードルの生産技術について支援を受けるために、ブーヴロン村と協定を締結しました。

締結式は 10 月 22 日 (月)、弘前市の葛西憲之市長とブーヴロン村のミシェル・カファール (Michel CAFFARD) 村長の出席の下執り行われました。

葛西市長は村内の製造業者を視察した際に「若者が積極的にシードル生産に携わる姿を見て感銘を受けた。」とあいさつし、カファール村長は「日本でシードルを紹介する大使」となって欲しいとコメントされました。

技術協定の主な内容は以下のとおり、期間は 3 年間とし、相互協議のうえ期間を更新することとしています。

- りんごの産地としてシードルを通じて交流していく。
- ブーヴロン村は、弘前市の求めに応じてシードル生産の技術支援を行う。

弘前市の訪問団の一員であるりんご課の熊谷課長は、フランスでシードルの原料となるりんごは、その種類が豊富な一方、弘前市とのりんごと異なり小ぶりで甘みが少ないことから、フランスから直接、製造技術を学ぶ意義を大いに感じていた様子でした。

弘前市では今年から 10 月・11 月を「弘前りんご博覧会」と称し、りんごにちなんだイベントを集中的に開催しています。ブーヴロン村で毎年 10 月末に開催している「シードル祭」は、試飲はもちろんのこと、シードルをはじめとする地元の特産品が多く売られる村の一大イベントの一つです。この「シードル祭」は「弘前りんご博覧会」を行うにあたって参考にしたとのこと、イベントの準備の様子も視察しました。シードル生産の技術支援以外でも今後はイベントを通じた交流に発展する可能性もありそうです。



シードルの原料となるりんご

締結式の最後に市長と村長の間で、今後の交流について、文化交流など、さらに分野を広げていくことを確認しました。

3. 弘前産「絵入りのりんご」を通じたフランスとの交流



弘前産絵入りのりんご

弘前市とフランスとの関係で忘れてはいけないのは、弘前市特産の「絵入りのりんご」です。りんごが赤く着色する前からシールを張り、シールを外すと絵が浮き上がるというもの。中には芸術品とも言えるデザインもあり、フランスでもこの「絵入りりんご」を制作していた歴史があります。弘前市内の生産農家の一つが、2002 年から毎年、弘前産の「絵入りのりんご」をフランス大統領官邸に献上しているそうです。現在ではその技術がすたれてしまったフランスに対し、弘前市の側から制作技術を教えています。

2004 年には、ヴェルサイユ宮殿の王立菜園において「絵入りりんご」の展示会が弘前市の協力の下開催され、弘前市の絵入りりんごは来場者たちに高い評価を得たとのこと。今回のフランス滞在中、葛西市長は、この展示会のお礼のためヴェルサイユ市を訪問しました。

4. 今後の交流について

外国の自治体との交流については、最近では、姉妹都市交流を目的とするものから、地元産業の販路拡大など実益を求める経済交流を目的とするものにシフトする傾向があります。今回の弘前市の事例もこの流れの一つと言えるのではないのでしょうか。

りんごの産地として国内で名高い弘前市が、そのりんごを使った加工品の開発を目的として、遠くフランスの地にまで足を運んで技術を学ぼうとする姿勢に、心を打たれました。

さらには芸術品として鑑賞する「絵入りのりんご」。フランスでは王家の歴史上と深い縁を持つ「絵入りのりんご」が、弘前市でも制作されていることに、弘前市とフランスの不思議な縁を感じました。

各々のアイデンティティーに根差した「りんご」でつながった弘前市とブーヴロン村の関係者は、りんごを中心とする話題に花が咲き、ブーヴロン村を発つバスに乗り込むまで両者の会話が途切れることはありませんでした。

今後はブーヴロン村からの技術支援を受けた地シードルが、弘前市で生産される日を楽しみにしたいと思います。

クレアパリ事務所は引き続き、国境を越えた自治体間交流を引き続き支援していきたいと思えます。

弘前市の観光情報やりんご PR 関連サイト等も是非ご覧ください

- 弘前感交劇場ポータルサイト：<http://www.hkg.jp/>
- 「パワーアップル！弘前産りんご」PR サイト <http://www.power-apple.jp/index.html>



(小林所長補佐 東京都派遣)

CLAIR

¹ 田舎の村の観光促進を目的とし「フランスの最も美しい村協会 (Les plus beaux villages de France)」が認定するもの。認定された村は多くの観光客が訪れる人気の観光地となっている。

² 優れた品質をもつ農産物やその加工品の品質を保証する農産物認証制度「AOC (Appellation d' Origine Contr·i·e)」のこと。